

令和4年度 第2回大阪府立泉北高等学校 学校運営協議会 議事録

- 日時：令和4年11月22日（火） 午後2時30分から午後4時
- 運営協議会委員出席者（敬称略）

菊田 久雄（大阪公立大学 副工学部長）

中村 俊一（立志館ゼミナール館長）、池内 博一（追手門学院大学 准教授）

濱田 利恵子（泉北高校PTA会長）、宇田 こずえ（泉北高校後援会 会長）

校長、教頭（司会）、池ノ上（首席、書記・探究活動担当）、大内（首席、広報・ICT担当）、篠原（進路指導主事）、榎阪（総合科学科長）、小田（事務長）、

1. 校長あいさつ

学校の様子紹介（第七波の影響もほぼ受けず、学校説明会を行った）

外部学校説明会と校内学校説明会を実施

校内での学校説明会では現役生徒が学校案内を行い、高校生目線で中学生に語った。

2年生修学旅行は福島県にて県内の高校2校と交流

高校生ボランティアアワードに出場

1年生レシテーションコンテスト実施

シンガポール国立大学と交流

少林寺拳法部全国2位・水泳部・バスケットボール部近畿大会

2年生国際文化科スピーチコンテスト開催

2. 協議事項（敬称略）

①授業見学意見交換

菊田：元気そうに授業を受けている、外部からの印象と同じ生徒像であると思われる。授業体制も変わってきている中で、どのように受験とつなげているのか

中村：ICTを使って実施しているため、宿題などの抜け落ちがない。明確ではっきりした指導を行っている。（英語・保健体育）教師の明確な指示が生徒の前向きな活動を生み出している。理科（物理）生徒が課題を自ら出していることは素晴らしい。基礎なくして論理観は構成されないの、いい研究になるだろう。生物の先生とのやり取り（一人が話していて残りが取り残されている状態）。グループディスカッションについては気をつけないと置いていかれる。

池内：実践型の授業。受験型のインプット型の授業はどのように行っているのか。古典でパソコンを使うことに感心した。英語理解を楽しく会話することをめざしている。文法や長文読解はどうしているのか？

宇田：総合科学の課題研究授業に先生が複数いることに驚いた。昔のような受け身の授業ではなく積極的に取り組んでいる授業に変わっている。発表などの授業は評価することが難しいのではないか

濱田：英語の授業に一体感があつた。先生が復唱していることで生徒に分かりやすくできる仕掛けがある。

②令和4年度学校経営計画の進捗状況

<溝端校長より>

- ・キャリア教育：外部講師などを踏まえて行っている。

- ・海外長期留学は3名行っている。
- ・Sharebrary の活用状況
- ・授業アンケート（第1回）については興味関心・知識技能について高い肯定意見
- ・教員の授業見学研修を実施
- ・自学自習については未実施
- ・英検の実施 CEFR の英語力の確保
- ・科学系コンテストの参加（大阪府学生科学賞など）
- ・進路保障について（後ほど進路部より）オープンキャンパス全員参加
- ・地域に開かれた学校としての取組み
- ・学校説明会（1019名参加 保護者込み）
- ・支援教育・遅刻者など
- ・教員研修の実施：ヤングケアラー・同和問題・いじめについて
- ・教員の働き方改革（業務のスリム化など・ICTの活用）

<首席大内より>

ICTを活用した教員の業務スリム化の説明

泉北高校教職員サイトの説明

Google カレンダースケジュール共有・出欠／欠席連絡・空き教室の予約確認作業など・コロナの感染者状況など・オンライン授業の対象者の設定など・保健室の来室状況・教員の業務を教職員サイトに統合していきながら、業務の負担を軽減していく方法を模索していく・会議のペーパーレス化

→教員の ICT 技術の向上・ペーパーレス化、業務の軽減などが可能になった。（教頭より補足）

③SSHの取組みについて

<榎阪 総合科学科長より>

SSH 経過措置について

SSH の概念図を元に説明（リゾーム型）

SSH 運営指導委員会にて概念図について意見交換

年末には主担と校長によるプレゼン・ヒアリング

様々なことを経験できるように課題研究やサイエンスツアーも学校の補助を得て行っている。

④52期生進路状況について

<進路部長 篠原より>

指定校推薦 60名

総合型選抜 20名

共通テスト出願 106名

⑤スクールミッションについて

<溝端校長より>

資料3より

学校経営計画等を参考にスクールミッションとポリシーを作成

3. 事務連絡

第3回学校運営協議会の日程について

第3回 2月 1日（水） 15：45～17：00 （予定）